

平成27年6月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 菅 原 琢 哉

そ う せ い 武 内 伸 文

市 民 ク ラ ブ 安 井 誠 悦

公 明 党 松 田 豊 臣

フロンティア秋田 倉 田 芳 浩

秋 水 会 佐 藤 宏 悦

秋 水 会 小 野 寺 誠

1 観光施策について

- (1) 観光物産課を観光部へ格上げし、東北各市や県との連携をさらに強める体制を構築するべきではないか
- (2) 東北六魂祭で得たノウハウと経験は何か、また、竿燈まつりに向けてそれらをどのように生かすのか

2 外旭川地区大型複合施設構想について

- (1) 同構想について、市は、民間活力を大いに活用し、粛々と協力しながら進めるべきではないか

3 泉・外旭川新駅（仮称）について

- (1) 新駅を設置する前に、泉踏切にホームをつくり、実態を把握するべきではないか

4 新たな文化施設について

- (1) 現時点での方向性はどうか

5 中心市街地のにぎわい創出について

- (1) 千秋公園のお堀の浮き棧橋について、利用目的と利用状況はどうか
- (2) 浮き棧橋の利用がされていない場合、民間に積極的に活用してもらうべきではないか
- (3) お堀のボートについて、市民意識をどうとらえているのか
- (4) お堀のボートについて、にぎわい創出のため、売り上げの一部を納付金とする方法にしてはどうか

6 地方創生及び人口減少対策について

- (1) 秋田市地方創生推進本部及び秋田市総合計画・地方創生検討部会は、次期秋田市総合計画及び地方版総合戦略の策定にどのように関わっ

ていくのか

- (2) 「秋田市の人口減少対策に関する提案書」をどのように検討し、実施するのか

7 子育てについて

- (1) 幼稚園、認定こども園及び保育園はどう違うのか、また、その回答を「子ナビ」のホームページに載せるべきではないか
- (2) 河辺・雄和両市民サービスセンターの子育て交流ひろばも、休日に利用できるようにすべきではないか
- (3) ファミリーサポートセンター運営事業について
- ア 同事業の協力会員には、市が委嘱するなどの資格認定を行う必要があると思うがどうか
 - イ 利用料の助成の申請方法を見直すべきではないか
- (4) 「子供の貧困対策に関する大綱」の取り組みと、指標の数値目標はどうか

8 教育について

- (1) 中学校生活について
- ア 就学援助費にない部活動に対する何らかの援助を考えるべきではないか
 - イ 通学時のリュックの重さについて、認識と見解はどうか
- (2) 市内の大学による教育の連携をどのように考えているのか
- (3) 秋田公立美術大学の大学院について、その後の検討状況はどうか

9 市民の健康について

- (1) 特定健康診査について、受診票等がなくても、かかりつけ医等の勧めで受診できるようにするべきではないか
- (2) がん検診の受診率等の現状分析と受診者数増加のための施策はどうか

10 高齢者にやさしいまちについて

- (1) 高齢者が健康時から地方に移住し、安心して老後を過ごすための「日本版ＣＣＲＣ」への取り組みはどうか
- (2) 終活支援と市のかかわりについて
- (3) 市営墓地について、生前建墓を可能にすべきではないか、また、市内在住に限った保証人を見直すべきではないか

11 大森山動物園名誉園長等について

- (1) 名誉園長を設けることは、どのように決定したのか
- (2) 名誉園長の紹介を依頼したのか、また、人選及び決定は事後報告でよいのか
- (3) 今後、名誉職を同様に設ける予定はあるのか

12 町内会等について

- (1) 町内会等の運営マニュアルは、どうなっているのか

13 日本女性会議２０１６秋田等について

- (1) 同会議が秋田市で開催される意義と効果はどうか
- (2) 今後、全国規模のイベント等の開催予定はあるのか

1 市民主役の市政について

(1) 秋田市しあわせづくり市民意識調査について

ア まちづくりの基本的な立場や成長戦略に関する施策に対する不満が多いことをどのように受けとめているのか、また、それに対する市民への対応状況はどうか

(2) 市政への市民参加について

ア 市政への市民参加の度合いが低いと思われるが、原因をどう分析しているのか、また、その対策として何が必要と考えているのか

イ 市民が主体的に市政にかかわるための仕掛けを実施していくべきではないか

ウ 市民の声を受けとめる体制について

(ア) 市長は、市民との意見交換の場はどうあるべきと考えているのか

(イ) 現状の体制において、市民が気軽に相談や提案ができる環境が整っていると考えているのか

(ウ) 行政が受けた意見や要望のうち、市民や庁内で情報を共有する価値があるものについては、積極的に公開していくべきではないか

2 人口減少・少子高齢化社会について

(1) 人口減少・少子高齢化対策における基本姿勢はどうか、また、人口をふやす方策の具体的なイメージはあるのか

(2) 地方人口ビジョン等、同様の計画を策定している県との連携は必須と考えるが、どのように連携していくのか

3 コンパクトシティについて

(1) 本市においてコンパクトシティを推進する目的は何か、また、マイルストーンについてはどうか

- (2) モニタリング指標として、アクセシビリティ指標などを設定し、広く市民と情報共有すべきと思うがどうか

4 シニア世代の移住について

- (1) 住みたいと思えるまちづくりについて

- ア 全国に付加価値のある「まち」であることをPRできるように、高齢化社会を意識した高水準な都市アメニティを念頭に置いたまちづくりに特化すべきと思うがどうか

- (2) C C R Cについて

- ア 日本創成会議の提言において、東京圏に住む高齢者の受け入れ先候補地として本市も選定されているが、市としてどのようにとらえているのか

- イ 秋田公立美術大学や国際教養大学において、移住者を含む社会人を対象とした学習プログラムを創設し秋田プラチナタウン研究会と連携することは、秋田版C C R Cの研究に資するものと考えているが、市としてどのように考えているのか

- (3) 受け入れ体制の整備について

- ア 移住者を積極的に受け入れられるよう、優良住宅の認定や税の優遇など、行政としてのサポート体制の整備が必要と考えるがどうか

5 公共交通等について

- (1) 高齢者コインバス事業の予算はどのように積算しているのか、また、平成28年度以降も同様に予算計上していくのか

- (2) 高齢者を含む市民にとって快適にバスを利用できる環境を整備していくことが必要と考えるが、現状及びマイルストーンはどうか、また、バス事業者に対する働きかけの状況はどうか

- (3) 観光客や高齢者を含むバス利用者の目線に立ち、利便性向上のためにICカードの導入をバス事業者に働きかけるべきと考えるが、本市のスタンスはどうか

- (4) 中心市街地循環バスについては、都市計画の一つとして位置づけ、

観光や生活の足など、利用する目的を想定した見直しを図っていくことが必要と考えるが、今後、どのように展開していくのか

- (5) 病院やスーパーマーケットなどから個別のバスサービスを提供してもらい可能性も視野に入れ、バス路線の見直しをバス事業者と協議すべきではないか
- (6) 泉・外旭川新駅（仮称）については、現状でバス路線の見直しのシミュレーションを行い、新駅利用時との費用対効果を比較すべきではないか
- (7) 近年、自転車利用を取り巻く環境が大きく変化しているが、本市においては、自転車を交通手段の一つとして安心して選択できる環境が整っているのか

6 千秋公園について

- (1) 観光客や高齢者が容易にアクセスできるよう、千秋公園へのバスの乗り入れをバス事業者に働きかけるなど、多様なアクセス施策を検討すべきではないか
- (2) 千秋公園の周辺も含めたにぎわいの創出ができるよう、お堀にウッドデッキを活用した遊歩道を整備するなど、公園周辺を周遊できる仕掛けづくりをする考えはないか

7 教育について

- (1) 学力日本一を足がかりとして、本市に移住したくなるような魅力ある独自の教育プログラムを確立すると同時に、子供たちの柔軟な受け入れ環境及びその家族を含む移住支援策を整備する考えはないか
- (2) 校外のICT等のプロフェッショナルによる実践教育を通じて、児童生徒の未来の可能性を広げる事業の実施を検討すべきではないか
- (3) 地域住民と子供たちとの多世代交流の場を設けるため、学級減に伴い発生する余裕教室等の活用が望ましいと考えるが、市としてどのように考えているのか

8 環境について

- (1) 家庭ごみの減量によってはCO₂削減の効果が大きく見込めない現状をかんがみ、家庭ごみ有料化を見直すべきと考えるがどうか
- (2) 今後のごみ減量の推進のために、生ごみのコンポスト化などをより普及させるべきと考えるがどうか

1 再生可能エネルギーについて

- (1) 再生可能エネルギーへのシフトにより、本市においてエネルギーの購入に要する経費の流出を減らし、財貨の地域循環を図ることで経済を活性化することは可能と考えるのか
- (2) 市内の再生可能エネルギーの普及に取り組む事業者と連携し、財貨の地域循環を図る施策を進める考えはないか
- (3) 一般家庭におけるペレットストーブ購入費用への助成を実施すべき時期に来ていると思うがどうか

2 中小企業の振興について

- (1) 中小企業の支援のため、秋田商工会議所、河辺雄和商工会、秋田県中小企業団体中央会及び秋田県中小企業家同友会などの団体とどのような協議を行っているのか
- (2) 次期秋田市総合計画の策定に合わせ、個別施策的な融資あっせん条例や商工業振興条例よりも上位に位置する理念的な条例として、中小企業振興条例を新たに設定すべきと思うがどうか

3 未来を担う子供たちの思い出継承事業について

- (1) 太平山自然学習センター「まんたらめ」で行う宿泊研修の中で、太平山リゾート公園内にスイセンなどの球根を植え続け、子供たちの思い出となる継承事業を行う考えはないか

4 スタジアムについて

- (1) スタジアムを単なるスポーツ施設ではなく、多機能複合型の施設としてとらえることについて、どのように考えるのか
- (2) ブラウブリッツ秋田がJ2に昇格するための条件の一つであるスタジアム建設に関し、県とどのように連携し、検討を進めているのか、また、建設に着手する条件を、ブラウブリッツ秋田がJ3で優勝した

場合、または、昇格要件を満たす上位となった場合などと具体的に示すべきではないか

5 グラウンドの人工芝化等について

- (1) 公益財団法人日本サッカー協会の施設整備助成事業の補助金を活用し、八橋健康広場及び勝平市民グラウンドの人工芝化並びにクラブハウスの整備を行う考えはないか

6 自殺をめぐる現状について

- (1) 公文書において用いる自殺という表記を自死に変える自治体がふえているが、本市において自殺と自死の言葉の違いをどのように認識しているのか

1 地方創生について

(1) 人口の現状分析及び将来展望について

ア 本市における人口動向の現状をどうとらえているのか、また、将来人口をどのように推計しているのか

イ 人口の変化が本市の将来にどのような影響を与えるのか

ウ 本市が目指すべき将来の方向性及び将来人口をどのように展望するのか

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略及び秋田版総合戦略について

ア まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる「しごと」と「ひと」の好循環づくり及び好循環を支えるまちの活性化を、本市が策定する地方版総合戦略及び次期総合計画にどのように反映し取り組んでいくのか

イ 県は秋田版総合戦略の素案を公表したが、県との整合性をどのように図っていくのか

2 地域産業の振興について

(1) 6次産業化及び農業振興について

ア 平成24年度から本格的に実施している6次産業化の現状における課題は何か、また、6次産業化及び農商工連携の取り組みが産業として発展していくため、目指す事業規模及び雇用の創出をどのように設定し、進めていくのか

イ 園芸振興センターにおいて、継続的に就農支援をするために重要な研修終了後の支援体制の整備及び指導者の計画的な確保に向けて、どのような取り組みを行っていくのか

(2) 地域ブランド化構築に向けた取り組みについて

ア 県都『あきた』成長プランにおいて、「地域ブランドの創出の促進」を基本施策として取り組んできたが、取り組み内容と成果及び課題は何か

イ 地域に「ヒト、モノ、カネ」を呼び込み、定住人口や観光など交流人口の増加、企業誘致にもつながる地域ブランド化の構築に向けた市内横断的な推進体制の整備及び地域ブランド力の向上に向けたシティセールス・プロモーションをどのように推進するのか

ウ 地域ブランド化の構築に向け、本年6月より開始された「地理的表示保護制度」にどのように対応していくのか

3 人口減少対策について

(1) 産み、育てやすい環境の整備について

ア 子ども・子育て支援新制度がスタートしたが、運用の状況及び課題は何か、また、課題解決に向けどのように取り組んでいくのか

イ 安心して産み、育てる環境の整備として、産後ケア事業の実施に向けた体制を構築し、推進すべきではないか

(2) コンパクトなまちづくりについて

ア 本市は都心・中心市街地と6つの地域中心を核とした多核集約型の都市構造として、国が推進する多極ネットワーク型コンパクトシティを目指しているが、具体的にどのような形及びスケジュールで進めているのか

イ 多極ネットワーク型コンパクトシティの実現にとって不可欠な公共交通ネットワークの再構築に向けた取り組みを支援すべきと考えるがどうか

4 ICTの活用について

(1) 行政の透明性・信頼性の向上、市民参加・官民協働の推進、経済の活性化・行政の効率化が三位一体で進んでいけるオープンデータの活用に向け、どのように取り組んでいくのか

(2) 道路の陥没など地域の危険箇所や問題を、スマートフォン等による市民からの情報提供により解決する手法を導入すべきと考えるがどうか

5 障がい者等への支援について

(1) オストメイトへの支援について

ア 本市の給付決定通知書等の表現において、オストメイトに配慮した名称変更をすべきと考えるがどうか

イ 災害時等への対応として、ストーマ装具を小中学校や市民サービスセンター等の備蓄倉庫に備蓄すべきと考えるがどうか

ウ 介護施設等でのストーマ装具の交換のためにも、介護サービス従事者のためのストーマケア講習会を開催すべきと考えるがどうか

(2) ヘルプカードについて

ア 障がい者や難病患者が必要な支援をあらかじめ記しておき、緊急時や災害時などの際に提示して、周囲の配慮や手助けを得やすくするために、ヘルプカードを活用すべきと考えるがどうか

6 生活困窮者自立支援制度について

(1) 生活困窮者自立支援法が本年4月から施行され、福祉総務課内に新たな担当が設置されたが、相談状況及び支援状況はどうか

(2) 声なき声を拾い上げるためのアウトリーチについて、どのように取り組んでいるのか

(3) 継続して確実な支援をするため、地域における生活困窮者の現状を把握するとともに、地域住民や関係機関に対し、生活困窮に関する情報発信を行い、地域の総合的な支援体制の強化を図るべきと考えるがどうか

7 投票環境の向上について

(1) 高齢者や障がい者が投票しやすいよう、バリアフリーに配慮した投票所の環境整備及びBGMを流すなど、投票所の雰囲気や和らげる工夫が必要と考えるがどうか

(2) 若年層への選挙啓発について

ア 若者に投票を呼びかける選挙コンシェルジュの導入を検討すべきと考えるがどうか

イ 学生や若者の投票しやすい環境づくりの一環として、大学構内での期日前投票所開設を検討すべきと考えるがどうか

8 地域の諸課題について

(1) 御所野地区の「緑豊かな街」を維持するため、街路樹の補植、枝の剪定、公園の樹木の立ち枯れ対応などの早急な整備が必要と考えるがどうか

(2) 御所野地区に秋田空港行きの空港リムジンバス停留所を設置すべきと考えるがどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 安全保障関連法案は憲法違反と考えるが市長の考えはどうか
- (2) イオンタウン株式会社の外旭川地区への出店構想をどう考えているのか

2 家庭ごみについて

(1) 家庭ごみの有料化について

- ア 平成22年度に住民説明会等を行った結果、市民の大半は理解したと判断をしていたが、その根拠は何か
- イ 平成21年度の地域別家庭ごみ組成調査の結果において、約15%とされているプラスチック類のうち、分別収集されるプラスチック類は、一、二%であるとされているが、その根拠は何か
- ウ 容器包装リサイクル法のプラスチック類に該当するものは、納豆の容器、チューブ及びお菓子の包装材以外はないのか
- エ プラスチック類として集められたものを研究したところ、約3割がマテリアルリサイクル、約7割がサーマルリサイクルされているとする根拠は何か
- オ 家庭ごみの有料化は、現在も市民のごみ減量に対する動機づけとなっていると考えているのか

(2) ごみ減量と地球温暖化防止等について

- ア 家庭ごみの有料化後、本市のごみ焼却における二酸化炭素の排出量はどのくらい削減されたのか
- イ 現在の溶融炉で処理されているごみの発熱量は幾らか、また、プラスチック類を除いた場合の発熱量はどうか
- ウ 本市の家庭ごみの一部は、サーマルリサイクルされているととらえてよいのか

3 市営墓地について

- (1) 市営墓地は公共施設に位置づけられると思うがどうか
- (2) 勾配の急な場所などが見受けられるため、再整備計画の策定を検討すべきと考えるがどうか
- (3) 平成8年度に造成した平和公園N墓域の永代使用料の算出に問題はなかったのか

4 「エリアなかいち」について

- (1) 秋田まちづくり株式会社の社長交代以降、同社との情報交換等を行っているのか
- (2) 秋田まちづくり株式会社が提訴されたとの報道があったが、当事者間の問題等について事前に把握していたのか

5 国民健康保険について

- (1) 被保険者資格証明書交付世帯について
 - ア 医療機関の受診控えをどのように認識しているのか
 - イ 今年度から交付前の戸別訪問を行う予定としているが開始時期はいつか、また、交付後の実態調査は行わないのか
 - ウ 現時点では、悪質な保険税滞納世帯に限定して証明書を交付すべきと思うがどうか
 - エ 被保険者資格証明書交付世帯の情報は、全庁的に共有されているのか

6 市職員の労働環境について

- (1) サービス残業は行われていないのか
- (2) 労働環境で特に配慮している点は何か

7 市道について

- (1) 市道の危険箇所を整備するための優先順位はどうなっているのか
- (2) 市道川尻広面線について
 - ア かさ上げ工事をしているが、その理由は何か、また、建設費用は

通常の工事と比較してどうなっているのか
イ 歩道の勾配はどのように変わったのか

8 介護老人保健施設について

- (1) 一部施設で誤嚥の事故のため、誤嚥性肺炎が多発したとの情報があるがどうか
- (2) 管理者が入院等で不在である場合、医学的管理はどのようになされているのか
- (3) 市の指導は適切に行われているのか

9 秋田市ポートタワーセリオンについて

- (1) リニューアルの効果をどうとらえているのか、また、利用者の声はどうか
- (2) 1階部分の動線について、どのような検討をしたのか
- (3) 指定管理者は、鮮魚の販売や6次産業に関してどのような提案をしていたのか
- (4) 鮮魚の販売について、どのように考えているのか
- (5) 生鮮食料品の販売について、県内のほかの道の駅と比較した場合、状況はどうか
- (6) 今後改善すべき点はあるのか

10 中学校の部活動について

- (1) 学校は部活動をどう認識しているのか
- (2) 廃止や存続についての規定はあるのか
- (3) 現在、部活動の数の削減を検討している学校の数とその内訳について
- (4) 部活動の数の削減が進むことにより、学区以外に通学する生徒もふえると考えられるが、その弊害はないのか

1 統一地方選挙等について

- (1) 公職選挙法改正案が衆議院で可決となったが、義務教育において選挙に対する教育を強化すべきと思うがどうか
- (2) 平成27年度統一地方選挙において、市議会議員一般選挙の47.61%という投票率をどう認識し、今後どう対応していくのか
- (3) 開票結果を早めに公表し選挙への関心を高めるための一環として、期日前投票分の開票を早め、その結果を開票開始直後に発表できないか、また、地方選挙におけるさまざまな問題点や指摘事項について、国へどのように要望しているのか

2 二重行政の解消について

- (1) 大阪都構想をめぐる住民投票に対する本市の見解はどうか
- (2) 秋田県と本市におけるハード面、ソフト面での二重行政の現状と認識はどうか、また、近隣市町村との話し合いは行われているのか
- (3) 地方分権、地域主権改革におけるの議論や検討内容から、二重行政解消の必要性と課題についてどう考えているのか

3 県市連携文化施設の基本計画について

- (1) さきの2月定例会の答弁において、同施設建設予定地の敷地面積は1万平方メートルを超えることが望ましいとしているがその根拠は何か、また、市街地にそのような規模の敷地はあるのか
- (2) 本会議において、本市はコンパクトな市街地を基本とするまちづくりの観点から、市街地に整備することが適当であるとの答弁があったが、他県の事例をかんがみても、コンパクトな市街地を基本とするまちづくりと結びつかないと考えるがどうか
- (3) 市街地にふさわしい規模の建設物は、本市の一極集中施策であり、中心拠点に集約させるだけではなく、郊外の安価な土地や将来的発展の見込みがある地域など、多極ネットワーク型コンパクト化を目指す

考え方と違いがあるように思われるがどうか

(4) 建設場所については、利用者側と行政側とで目線の違いを感じるがどうか

(5) 県市連携文化施設の整備は非常に関心が高いと思われることから、県民及び市民を初め、さまざまな企業や団体からも広く意見を集め検討すべきと考えるがどうか

4 誘致企業の現状と将来について

(1) 穂積市長就任以降に、誘致された企業の現状とその評価について

(2) 企業が本市に進出したくなる優遇制度や優遇措置など、他都市にはない好条件はあるのか

(3) 市内企業の育成と事業拡大の見込みについてどう分析しているのか

(4) 企業誘致への取り組みについて

ア 何を目的にどのような企業をターゲットにしたのか

イ 誘致に至らなかった原因とその対策について

ウ 誘致に成功した要因について

エ 今後の取り組み目標と見込みについて

5 秋田市プレミアム付き商品券発行事業等について

(1) 秋田市プレミアム付き商品券の取り扱いを、限られた商店街の取り組みで終わらせず、条件に該当するすべての商店主に、取り扱いについて周知すべきと考えるがどうか

(2) 本事業への参加対象の事業者数はどのくらいで募集方法はどのようにするのか、また、目標とする参加者数と一社当たりの取扱額は幾らか

(3) 秋田市プレミアム付き商品券による経済効果をどのように認識しているのか

(4) 他都市では3割のプレミアムをつけた商品券を発行しているところもあるが、本市ではなぜ2割のプレミアムとなったのか

(5) 秋田市プレミアム付き商品券の発行に伴う買い控えや、使用期間終

了後の売上高の下降予想についてはどう分析しているのか

(6) 秋田県で販売されたプレミアムつき旅行券「アキタノ旅クーポン」の事業の成果と課題をどう生かすのか

(7) 地域商店街活性化対策について、今後の計画をどう考えているのか

6 6次産業化支援制度について

(1) 6次産業化・農商工連携支援事業の実績について

(2) 同事業を利用しづらい現状についての認識はどうか、また、同事業の補助率を見直すなどの考えはないのか

(3) 同事業の本市が目指す今後の方向性について

7 外旭川地区の大型複合施設構想について

(1) 同構想について、我々の故郷である秋田を思い、夢を語り、研究しながら、将来のある暮らしやすい地域づくりを提案するこれまでの行動をどう思うのか

(2) 構想化されたまちづくりの投資額は、400億円規模と聞いているがどう思うのか

(3) 予想される経済効果を試算したのか、また、これほどの投資構想に経済効果を試算しないとすれば、その理由は何か

(4) 同構想にある35ヘクタールの農用地区域の開発については、外旭川地区の優良農地の13%を占めており、本市における農業振興策への影響が懸念されているが、どのような影響がどの程度あるのか、また、外旭川地区の農業にはどのような影響があるのか

(5) 13%の優良農地が、秋田のどこよりも先駆け、企業とともにつくる6次産業化の先駆農地として生まれ変わろうとしているが、受け入れられないとしたら、秋田県や本市が進める6次産業化に相反する考え方ではないのか

(6) 中心市街地への影響として、メリット、デメリットが混在するが、商業経営においては社会的変化に対する影響は常に抱える課題であり、一部地域の既存店の利益を優先する考えは、公正・平等を旨とする行

政の立場からどう理解すればよいのか

- (7) 実現化された場合、正規雇用が1割であると予想されているが、現在、ライフスタイルに合わせた勤務形態の多様化が進む中で、正規雇用にこだわる理由は何か
- (8) 本市の将来にとって希望が持てる構想であり、実現または可能性に向け市長はリーダーとして真剣に向き合い、議論の場に取り上げる必要があると考えるがどうか

8 コンパクトシティについて

- (1) 都市再生特別措置法の改正に伴い、本市における多極ネットワーク型コンパクトシティについて、どのように考えているのか
- (2) 都市機能の立地促進について、福祉・医療施設や商業施設の誘導に対して税制上あるいは金融上の優遇措置が、医療施設等の建てかえには容積率の緩和措置などがあるが、本市における誘導区域及び誘導企業・施設の現状と誘導の実現の可能性はどうか
- (3) 本市において「都市機能の近接化による歩いて暮らせる集約型まちづくり」をどのように実現するのか
- (4) 公共交通を軸とするまちづくりはどこまで進んでいるのか、また、実現のためのコストと期間についてどのように考えているのか
- (5) 本市の経済的発展及び市民生活には自家用車は必要不可欠であるが、コンパクトシティと車文化との整合性をどのように考えているのか
- (6) ロードサービス産業の誘導地区への誘導に当たっては、さまざまな支援や規制緩和があるが、当該地区にあっては規制緩和策などはないのか
- (7) 本市におけるコンパクトシティの推進は、いつからスタートし、具体的にどのような取り組みを行い、どのくらいの予算を執行してきたのか、また、その成果はどうか
- (8) 「都心・中心市街地」及び「地域中心」の実現により、インフラの維持管理費は、どの程度軽減されると試算しているのか
- (9) 「都心・中心市街地」の実現により、同地域の人口比率の計画はど

うなっているのか、また、郊外においては集落の衰退につながり、農
林業や地域のお祭りなどの文化の継承などにも影響が生じる可能性が
あると思うがどうか

(10) 今後、本市が目指すコンパクトシティのコンセプトは何か

9 上北手御所野線の早期着工と南ヶ丘ニュータウンについて

(1) 南ヶ丘ニュータウンへの出入り口が1カ所しかない現状について、
どう認識しているのか

(2) 同ニュータウンへの出入り口には、秋田県内唯一の救命救急センタ
ーである秋田赤十字病院があるが、事故等により道路が通行不可能と
なった場合、代替の道路計画はあるのか、また、この問題を解消する
ため、その代替のルートについて地元と話し合いは行われているのか

(3) 同ニュータウンの子供たちが上北手小学校まで通学するには、この
1カ所しかない出入り口を通り、ガードレールや歩道のない市道を通
学路として登下校している状況にあるが、安全はどう守られるのか

(4) 上北手御所野線の早期着工の必要性をどう認識しているのか、また、
着工できない原因は何か

(5) 同ニュータウンの住民は買い物施設がないため、ふだんの生活にも
支障を来しているが、どのように認識し、対応をどのように考えてい
るのか

(6) 同ニュータウンで「南ヶ丘」という名称を用いて住居表示を実施す
べきと思うがどうか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 地方版総合戦略の最終年度である平成31年度の本市の都市像をどのようにイメージしているのか
- (2) 転出者を呼び戻すとともに、人口流出を食いとめるため、本市にはどのような環境整備が必要と考えているのか
- (3) 連携中枢都市圏構想を進めるため、連携協約の締結に取り組む考えはあるのか

2 市長公約について

- (1) 泉・外旭川新駅（仮称）の整備について
 - ア 事業の妥当性についての検証状況はどうか
 - イ これまで協議されている施設の規模及び整備内容はどのようなものか

3 社会保障・税番号制度について

- (1) 制度導入に当たっての各種システム導入経費や改修経費はどのくらいか、また、年間の維持費はどのくらいと想定しているのか
- (2) 各種システム導入や改修に伴う市内企業への経済効果はどうか
- (3) 市民にとって制度導入による具体的なメリットは何か、また、今後の周知についてどのように考えているのか
- (4) 制度導入による各種申請に係る手数料の収入減は、どのくらいになると見込んでいるのか

4 観光振興について

- (1) 本市で開催された「第29回国民文化祭・あきた2014」の実績と、「東北六魂祭2015秋田」の成果と課題について、どうとらえているのか
- (2) 県都『あきた』成長プランに掲げているコンベンション開催件数の

達成状況はどうか

- (3) 本市でコンベンションを開催した団体の感想や要望等を集約しているのか、また、どのようなものがあるのか

5 教育行政について

- (1) 中学校学習指導要領において部活動のあり方が示されたことをどのようにとらえているのか、また、課題及び対応について、どのように考えているのか

- (2) 教職員定数の削減に対する本市の見解はどうか

6 生活保護及び生活困窮者自立支援事業について

- (1) 生活保護について

ア 不正受給の発生件数とその金額はどうか

イ 不正受給の防止に向けた対策をどのように講じているのか

- (2) 生活困窮者自立支援事業について

ア これまでの相談実績と相談者の特徴などはどうなっているのか

イ 自立につながったケースはどのくらいあるのか、また、自立支援のための課題は何か

7 地域の諸課題について

- (1) 岩見三内地区における診療所の再開について

ア これまで具体的にどのような取り組みを行ってきたのか

イ 市としてどのような支援ができるのか、また、今後の見通しと課題についてどう考えているのか

- (2) 秋田市過疎地域自立促進計画について

ア 現時点での達成状況はどうなっているのか

イ 計画達成に向けた課題はどのようなものがあるのか、また、今後、課題解決に向けてどのように取り組んでいくのか

- (3) 河辺都市計画区域の秋田都市計画区域への統合について

ア 統合後における既存権利の届け出及び許可の実績はどうか

イ 市街化調整区域に指定されたことにより、苦情や相談はなかった
のか